

住宅と公共性

住宅は個人のもですが、個人がその住宅を必要としなくなったら壊してしまう現在の住宅の状況はなんだか寂しいものです。

他者からも必要とされるような家ができたら、住宅は簡単に壊されるようなことにはならないのではないのでしょうか。



そんな中、僕たちは1軒の空家（町家）に出会いました。



この古い町屋は福井県越前市武生にあります。
武生は古くは国府が置かれていて町全体が活気づいていました。
しかし、高度経済成長やライフスタイルの変化によって、
都心部にどんどん人は移っていきました。

すると、どんどんと活気を失った町になってしまいました。
空家もどんどん増えていきました。
価値を見出せない空家は、取り壊され駐車場にするしかない
という悲しい結末をむかえるのが現状です。

この古い町屋も何度も取り壊しの危機を乗り越えてきたそうです。
何かこの町屋に再び価値のあるモノとして生まれ変わることは
できないのでしょうか。

空家の持ち主は、あばあちゃんだけで1人暮らし。
夫は10年前に亡くなってしまいました。
ここに1人で住むのはさみしいので
近くにアパートを借りて住んでいるそうです。



そこでまず、実測調査にのりだしました。

まずは大掃除。家中がツタだらけでホコリまみれでした。
次に、図面が残っていなかったなので、実測で測って描きました。



周辺は、とても静かで、たまにおばあちゃんたちが道端でおしゃべりしたりしています。

また町家の前の道が小学校の通学路なので、夕方には子どもたちの笑い声が聞こえてきます。

周辺は、多くの物件が空家となっていて、駐車場や空き地となっていました。
 そうして空いた土地には『公共』をうたい文句にした公共建築ができあがっています。

高いお金を払って....



そこでこの空家を住人の生活を豊かにする図書館のような住宅にします。
 地域の人々が、無関心だった「空家」を、関心をもってもらえるように
 変えたいのです。

そしておばあちゃんだけの「家」にとどまらず、周囲の人や子どもたちに
 関わりをもってもらえるような「公共性を持った家」ができたなら、その
 空家は周辺の人々からも必要とされる住宅となるのではないのでしょうか。



空家町屋 改修前
 1階平面図 S=1:200



いろんな場所に玄関がある。
 西側はにわのようになる。
 地域住民も使う。

空家町屋 提案(改修後)
 1階平面図 S=1:200





全体の写真



西側の断面写真



道路から見ると...



大きな穴からのぞくと...



土のわから見ると...

人々が関心を持って、必要としてくれればくれるほど、この家の価値は上がっていきます。

この家はもう死ぬことはないのです。地域とともに生きていきます。